

令和7年上野原市議会 第2回定例会席上 市長あいさつ
令和7年6月5日

本日ここに、令和7年上野原市議会第2回定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご参集いただきまして、心より厚くお礼申し上げます。

本定例会の開会に当たり、提出いたしました議案につきまして、その概要を説明するとともに、市政運営の状況について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

初めに、「市制施行20周年記念式典」についてでございます。

早いもので、我が上野原市も平成17年2月の町村合併から20年が過ぎ、先月、18日には、市制施行20周年を記念し、多くの関係者をお迎えする中、盛大に記念式典が挙行されました。

今回式典にあわせ市政功労者表彰としまして、特別功績2名、有功1名、功労3名、善行3名の9名を表彰させていただきました。今日まで、コロナ渦、国際紛争による原油・物価高騰、頻発・激甚化する自然災害、また、働き手不足や少子高齢化・個人ニーズの多様化・デジタル技術の進展などといった大きな変革の時代を歩み、多くの困難に直面しながらも、これらを克服し、ここまで発展させ20周年を迎えることが出来たのは、表彰されたみなさんをはじめ、先輩諸氏のたゆまぬ努力と市民の皆様一人一人の絶大なお力添えのたまものであり、改めて心から敬意と感謝を表します。

また、式典では、市内に移住した歌手の「ゆう理」様によるオープニングセレモニーからはじまり、記念口演では、市内在住の浪曲師「木村勝千代」様による浪曲披露も行い、大いに盛り上がりを見せました。さらには市内小中学生による「私の好きな上野原市」「未来の上野原市」をテーマにした作文の発表では、子どもたちの、上野原市や未来の上野原への想いをきくことができ、「感動した」「今回の式典はオール上野原で構成されたすばらしい式典だった」など、高い評価をいただいております。まさにこれからの上野原市の未来に繋がる式典だったのではないかと感じております。

私も、市長就任2期目を迎えてから2ヶ月が経過しましたが、改めてこの式典を通じて「未来の上野原」を考えた際、市政の執行者といたしまして、その責任の重さを再認識しているところでございます。これからの4年間、子どもから高齢者まで、すべての市民が「将来に希望の持てるまち」を目指し、市民の皆さんの負託にこたえるよう、誠心誠意、市政運営に努めてまいります。

さて、全国的な人口減少と東京一極集中に代表される大都市への人口移動を背景に、上野原市も人口減少が依然として続いております。特に子どもや生産年齢人口の減少が大きく、少子高齢化を伴いながら進展する人口の急激な減少は、地域における経済活動やコミュニティ活動などの活力を衰退させ、ひいては、上野原市における安定した生活・暮らしや都市経営そのものの持続可能性が危惧され、行政サービスを始めとした、様々な分野へ負の影響が及ぶことが考えられます。上野原市においてもこのような現状に対応するため、私は、これまで第2期総合戦略に基づいた事業に取り組んで参りましたが、これまでの取り組みを切れ目なく繋げ、人口減少・生産年齢人口の

減少といった事態を正面から受け止めた上で、人口が減少しても持続可能な地域を目指し、「上野原市総合戦略」となる「上野原市みらい戦略2025－2030」を策定しております。私は、この戦略を市政運営の基本方針として、市長2期目の初年度となる令和7年度には、総合戦略に基づいた上野原市の未来に繋がる取組をさらに推進して参りたいと考えてございます。

この戦略の期間は、5年間となりますが、これからの5年間においても、引き続き予断を許さない、先行きの不透明な状況が続き、これまで予想も出来なかった未知なる課題が表出し、本市を取り巻く環境や社会経済状況も大きく変化していくことも予想されます。しかしながら、将来に希望を繋ぐためには、今を生きるそれぞれの世代が、私たちのために「できること」、私たちが想う将来世代のために「しておきたいこと」を、市民ひとりひとりが受け身ではなく主体的な意識をもって、あきらめず実現していくことが大切だと感じております。私自身もこの総合戦略を「本気でやり遂げる」といった覚悟をもって挑んで参る所存であります。

引き続き、市民のために全力で取り組んで参りますので、議員各位におかれましても、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。